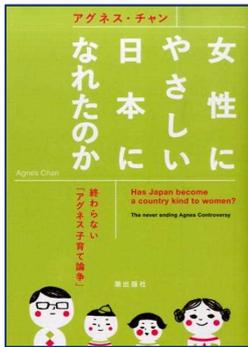


SDGsの目標5が目指す「ジェンダー平等」は、性別にかかわらず、すべての人が平等に権利や責任、機会を分かち合い、物事を一緒に決めていくことができることです。身近なことから何ができるかを考えてみませんか。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



女性にやさしい日本になれたのか

2014年 潮出版社

アグネス・チャン (著)

[400-3]

「子連れ出勤」が発端となって1987年に起きたアグネス論争。「大人の世界に子どもを入れるな」と批判を浴びたが、フェミニストの女性たちがこの批判を「女性と労働」をめぐる社会的な論争へと引き上げていった。論争はやがて「働く女性の子育て問題」のふたをこじ開け「育児休業法」の成立などの育児支援へとつながる。著者は語る。「子育てをしながら仕事を続けてきた私の人生は充実していた。だからこそ子どもを持つことをためらっている女性たちの背中を押してあげたい。苦労もあるけどすごく楽しいわよ」と。(ぽっと)



コーヒーで読み解くSDGs

2021年 ポプラ社

José. 川島良彰、池本幸生、
山下加夏 (著)

[700-1]

コーヒーハンター、大学教授、サステナビリティアドバイザーの3人の著者が、「コーヒー」を通して「SDGs」の17の目標すべてを読み解いていく。

5番目の目標「ジェンダー平等を実現しよう」では、コーヒー生産者に残るジェンダー不平等を改善するためのプログラムについて紹介。男性だけが行っていた品質管理や販売に女性が参加することで、より高品質で高価格のコーヒーが生産できるようになった。

正当な対価でコーヒーを味わうことが、持続可能な世界に繋がるのかと、ほっと一息ついた。(ルナ)



多様な社会はなぜ難しいか 日本の「ダイバーシティ進化論」

2021年 日経BP
日本経済新聞出版本部

水無田気流 (著)

[700-2]

私たちは一人ひとり違っているのです、もともと多様だ。でも、それをないことにする社会が、ダイバーシティの実現を阻んでいる。「効率最優先、家事も子育てもパートナーに丸投げで仕事だけする。障がいや性別、国籍などで悩む必要もない」、そんな特権を持っている人にだけ都合のいい社会は、そうでない人たちが声を上げてても届かない。その人の属性によって生きづらさには大きな差があるが、属性の前に「私は私」。

本書は、それぞれの普通や幸福を尊重し合って生きていくための手がかりをくれる。(こなつ)



なぜ女性管理職は少ないのか 女性の昇進を妨げる要因を考える

2019年 青弓社

大沢真知子 (編・著)

日本女子大学
現代女性キャリア研究所 (編)

[800-2]

女性の昇進を妨げる要因の一つに「ステレオタイプ脅威」がある。「管理職は男性」とのイメージが根強く残る仕事の現場では、昇進後の立場の難しさに不安を覚え、昇進への道を自ら閉ざす女性が多くなっている。ジェンダーバイアスの影響を受ける環境下で、女性たちは管理職へのキャリア形成につながる仕事に就けているのだろうか。男女が平等に能力を認め合える社会を構築するために、私たちは今何をすべきか。その問いに応える「課題と展望」を本書が詳しく解説。改革はすでに始まっている。勇気とともに前へ。(みっと)